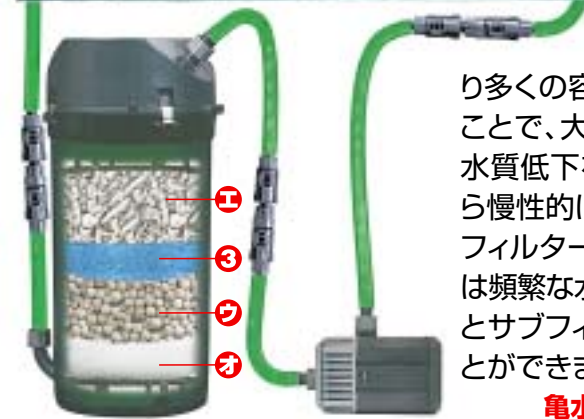


# エーハイムポンプ1048+サブフィルター2215でのセット例 1



## 排泄量が多い亀での使用例

木化石を使用してレイアウトしました。右サイドには大きなものを使い、手前にスロープを作り、その奥に甲羅干しができる陸場を設けています。左サイドにはプレフィルターを設置しているので、亀がプレフィルターを動かさないように、木化石を配してガードしました。排水は右手前のエルボーコネクターから行っていますが、左に向けて水流を得ることもでき、右側面に向けて水流を抑えることも可能です。ここではサブフィルターに2215を使い、エーハイムポンプ1048で循環させています。水槽内の水量が少ない分、大きめのサブフィルターを使用することで、より多くの容積を得ることができます。また吸水口にプレフィルターを設置することで、大きなゴミ等の侵入を防ぎ、サブフィルターの汚れを抑えるとともに水質低下を遅らせることができます。ちなみに、亀水槽ではセット数ヶ月後から慢性的にpHが降下してしまうことがありますが、これを防止するためにサブフィルターにはサンゴ礫を入れてあります。いずれにしても、排泄量が多い亀は頻繁な水替えを必要としますが、プレフィルターとサブフィルターの併用で、その回数を減らすことができます。



サブフィルター2215

エーハイム  
水陸両用ポンプ1048

### 亀水槽【データ】

水槽サイズ:60×30×36cm/収容種:ニシキマゲクビガメ×1/水温:26℃/pH:7.0/給餌回数:1日1回(昼)  
餌の種類:ペレット、子エビなどの天然素材乾燥餌料/換水:週1回、全水量の2分の1

### 使用する材早見表

① 活性炭パッド※	③ 粗目パッド
⑤ サブストラットフロ	④ サンゴ礫
② フィルターキッセン	

# エーハイムポンプ1048+サブフィルター2215でのセット例 2

## 高いろ過能力が必要な海水魚での使用例

全体的に白っぽい印象に仕上がりがやすい海水魚の飼育水槽ですが、少しでも色彩的に華やかになるように、色鮮やかなサンゴを随所に配してレイアウトしました。今回は、エーハイムクラシックフィルター2215と同じフィルターケース容積のサブフィルター2215に、エーハイム水陸両用ポンプ1048を連結して駆動させています。水陸両用ポンプは、トルクが強く水の「押し上げ」や「引き」の力が大きいので、海水魚のように大きく強い流量が必要な魚種の飼育にはまさに最適といえます。このような密閉式のろ過システムを使用した海水魚飼育では、ろ過槽内のろ過バクテリアへの十分な酸素の供給に加えて、海水の活性化にも有効な微細気泡が噴霧できるディフューザーの装備が不可欠です。ただし、大量の微細気泡が吸水口からフィルターケースに吸い込まれると、フィルターケース内部でそれが集まって大きな気泡を形成し、ろ材の間をぬって流れるフィルターケース内部水流のスムーズな通過を阻害してろ過能力の低下を招く恐れがあります。このリスクを低減するには、吸水口をディフューザーの噴霧方向の手前に設置すると効果的です。

### 海水魚水槽【データ】

水槽サイズ:60×30×36cm/収容種:フレンチエンゼル×1、フレイムエンゼル×1、コラーレバタフライ×1、ハタテダイ×1、キイロハギ×1、カクレクマノミ×2/水温:26℃/pH:8.2/給餌回数:1日1回(昼)/餌の種類:フレーク状海水魚用餌料、冷凍アミ、他/換水:月1回、10ℓ



サブフィルター2215

エーハイム  
水陸両用ポンプ  
1048



### 使用する材早見表

① 活性炭パッド※	③ 粗目パッド
② サブストラットプロ	④ サンゴ礫
⑤ フィルターケース	

※活性炭パッドは2週間を目安に交換、あるいは除去してください。